

# Hyperferritinemia and acute kidney injury in pediatric patients receiving allogeneic hematopoietic cell transplantation

黒川, 麻里

<https://hdl.handle.net/2324/6796075>

---

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	黒川 麻里
論文名	Hyperferritinemia and acute kidney injury in pediatric patients receiving allogeneic hematopoietic cell transplantation
論文調査委員	主査 九州大学 教授 江藤 正俊 副査 九州大学 教授 新井 文用 副査 九州大学 教授 田尻 達郎

### 論文審査の結果の要旨

造血細胞移植（HCT）を受けた小児患者では、急性腎障害（AKI）がしばしば発生する。著者らは、小児患者におけるHCT関連AKIのリスクとその影響を評価した。著者らの研究では、造血細胞移植を受けた小児69例の、移植後100日と1年時点での患者の生存率の腎予後について、後方視的に調査を行った。その結果、移植後100日までに、34例（49%）でステージ3のAKIを発症していた。ステージ3のAKIを発症した患者の移植後100日時点の全生存率（OS）は、発症していない患者より低かった（76.5% vs 94.3%,  $P = 0.035$ ）。悪性腫瘍（粗ハザード比（HR）5.7, 95%信頼区間（CI）, 2.20~14.96）、1000 ng/mL以上のフェリチン血症（粗HR 4.29, 95%CI, 2.11~8.71）、移植ソースが末梢血（粗 HR 2.96, 95%CI, 1.22~7.20）または臍帯血（粗 HR 2.29, 95%CI, 1.03~5.06）、および骨髄破壊的前処置（粗 HR 2.56 ; 95%CI, 1.24~5.26）が、移植後100日までのAKIのリスク因子として同定された。高フェリチン血症は独立したリスク因子であった（調整後HR 5.52; 95% CI, 2.21~13.76）。結論として高フェリチン血症は、移植後のAKI ステージ3および早期死亡と関連していることが示された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。なお本論文は共著者多数であるが、予備調査の結果、申請者が主導的役割を果たしていることを確認した。よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定し、博士（医学）の学位に値すると認める。